

平成30年度 教育指導計画 京都市立旭丘中学校

1 教育目標及び子ども像・教職員像・学校像

教育目標

社会を心豊かに、たくましく生きぬく生徒の育成。

目指す子ども像

- 自分を大切にでき、自分に誇れる生き方をする生徒。
- 自分と仲間の良さを発見できる生徒。
- 仲間を大切にできる、優しさと思いやりのある生徒。
- 自分から学習と進路に向かうことができる生徒。

目指す教職員像

- 「優しく」「丁寧に」を常に念頭に置き、生徒に、お互いの教職員に接することが出来る。
- 相手の気持ちを常に考えることが出来る。
- お互いの人権を尊重し、互いに支え合う教職員集団（尊敬と信頼で結ばれた教職員集団）を目指す。
- お互いの良さを発見できる教職員集団を目指す。
- チームとしての団結の大切さを常に考えることが出来る。

目指す学校像

- 「優しく」「丁寧に」を教職員、生徒が常に意識を持つことが出来る。
- 誰もが是非通いたいと思える学校
- お互いの人権を高め合える学校
- 道徳教育を常に大切に出来る学校

2 学校経営方針

- 全教職員が、常にだれに対しても「優しく」「丁寧に」を心がけ、「学校教育目標」や「目指す生像」を達成させる共通の目的意識をもつ集団を創造する。
- すべての教職員がカリキュラム・マネジメントの視点を持つと共に、運営委員会・学年会・教科主任会、各種委員会等を機能的に運営し、指導姿勢の一致を図り学校改革に取り組む。
- 学習指導、生徒指導、健康・安全指導、同和教育、男女平等教育、総合育成支援教育、外国人教育、性教育・キャリア教育等の分野・領域において、学校体制で創造的実践を推進する。

3 学校教育の計画

(1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

自ら学び・考え、互いに学び合う授業を推進し、新学習指導要領を念頭に置き、常に生徒・教師が丁寧に一時間一時間の授業を大切にする学校体制を目指す。

具体的な取組

- ・授業の目標、進捗状況を綿密に意見交換できる教科会の充実。
- ・深い学びの視点からの授業改善に資する研修会、情報交換の企画・運営。
- ・全教科において、なぜ言語活動が大切なかを認識した授業の展開。
- ・生徒が自ら学び・自ら考える授業の推進とともに、本校で作成の「確かな学びの手引き」をもとにした学習指導計画・評価計画の立案。
- ・学力向上を大きな目標とし、一人一人を大切にした分割授業やT.Tの推進。
- ・基礎・基本的な学力の定着と、発展的学習への取り組み。
- ・LD等支援を必要とする生徒理解と、情報交換を密にした学力向上への取り組み。
- ・ICTの活用やワークグループによる学習による生徒の情報発信。更にスキルやコミュニケーション能力の向上。
- ・課外授業（朝学習・朝読書・放課後補充学習会・テスト前学習会・長期休業での補充学習等）の活用と計画的な実施計画の立案。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

「自分らしく生きる」「共に生きる」を道徳教育の中で常に考え、規範意識の向上や、支え合い高め合う集団づくりの推進と絆づくりを行う。

具体的な取組

- ・毎週の道徳時間に対して、活発な意見交換が出来る教師集団と学級・学年・学校づくりを目指す。
- ・日頃の授業、部活動、学校行事等で、自分や仲間のいいところを積極的に見つけようと努力する姿勢を持たせる取り組み。
- ・日々の学校生活の中で、仲間の思いに心を傾け、受け入れ、安心して生活することができる学校の空間づくりに取り組む。
- ・生徒会が主体となった基本的生活習慣の点検等をさらに生徒自らが工夫しておこない、生徒の自浄能力を高める企画を推進する。
- ・総合学習等で、生徒が視野を広げる場をできるだけたくさん提供し、仲間や教職員・保護者共に心技体を成長させることを推進する。
- ・学校行事では、特に学校祭において、大きく心の成長が期待できることを念頭に置き、丁寧な指導を心がける。
- ・規範意識を育てる道徳の授業をより一層充実させることによって、生徒たちの内面へ入り込んだ指導ができるようにしていく。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

重点目標

運動やスポーツの実践と体力の向上を図ると共に、自らの健康課題に気付き、より健康な生活へ改善していくための健康教育を行う。

具体的な取組

- ・朝学活時の健康観察を徹底し、生徒一人ひとりが自らの健康に対する意識を深められるようにする。
- ・学校給食を含め、食に関する指導を推進し、食育の充実を図る。
- ・基本的生活習慣の確立に向けた保健指導を充実させる。
- ・朝食・ベル着・遅刻・忘れ物等をなくす運動を、生徒が主体となって取り組めるようにする。その際、互いに呼びかけ合ったり励まし合ったりしながら完全達成を目指すことの重要性を学ばせたい。
- ・飲酒、喫煙、薬物に関する指導を、外部からの講師を招き、指導の充実を図る。
- ・不審者・火災・地震等の訓練を定期的に実施することで、緊急時に正しい行動がとれるように指導する。

4 「小中一貫教育」における9年間の教育目標と目指す子ども像

9年間の教育目標（中学校ブロックの小・中学校で共有すること）

- ・HATT（鳳徳小・旭丘中・待鳳小・鷹峯小）コンチネント・プランにより小学校6年間と中学校3年間の9年間の学びと育ちの充実を図る。
- ・小中連携を通して、子どもたちに具体的にどのような力を付けさせるのか、またそれをどのような方法で行うのかについて、小中校長会、及び小中主任会を実施し、具体的に研究・実践を進めていく。
- ・9年間の学びと育ちの充実を図り、学力向上を中心、計画的・系統的な小中一貫教育を地域とともに一体となって行い、児童・生徒個々の資質や能力を十分に引き出し、将来展望をもつ児童・生徒を育成する。

目指す子ども像（中学校ブロックの小・中学校で共有すること）

- ・自分で見つけた課題を解決しようと最後まで粘り強く努力する子ども
- ・自分より年下の学年の子どもを思いやり見守ることができる子ども
- ・何事も友だちと協力してやりとげる子ども
- ・何事に対しても、やればできるという自信にみちあふれた子ども
- ・いけないことに対して、はっきりと指摘できる子ども
- ・自分や友だちを大切にし、仲よく遊ぶ子ども

自校の具体的な取組

- ・HATT（鳳徳小・旭丘中・待鳳小・鷹峰小）コンチネント・プランにある小中連携主任、人権主任、研究主任、生徒指導主任、総合育成支援教育主任等の会議を基本的に年3回行い、3小学校1中学校が目指しているところの共通認識を行う。
- ・授業研修会を年2回以上行い、授業形態や発問や板書方法などの研修を、指導主事を招き行う。
- ・HATTスタンダード作成に向けて5主任会を中心に活動し、小中全教職員が子どもたちと一緒に共通の目標に向かえるようにしていく。